●講座—現代人の科学・全12巻●日本科学者会議編

1
インフレーションの経済学

大月書店

〈執筆者紹介〉
渡辺　佐平　法政大学名誉教授・金融論
久留間　健　立教大学経済学部・国際金融論
北田　芳治　東京経済大学経営学部・貿易論
桑野　仁　日本福祉大学経済学部・国際金融論
花原　二郎　法政大学経営学部・貿易論
川口　弘　中央大学経済学部・経済原論
山崎不二夫　東京大学名誉教授
建部　正義　中央大学商学部

現代人の科学　第1巻
インフレーションの経済学

1975年6月12日第1刷発行
1979年7月31日第6刷発行
¥1200

編　者© 日本科学者会議
発行者　平　智享

発行所　〒113 東京都文京区本郷2-11-9
株式会社　大月書店
印刷 三晃印刷
製本 田中製本
電話(営業)813-4651(編集)814-2931 振替 京京3-16387

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写複製(コピー)することは，法律で認められた場合を除き，著作者および出版社の権利の侵害となりますので，その場合にはあらかじめ小社あて許諾を求めてください．

講座＝現代人の科学 1

インフレーションの経済学

日本科学者会議編

渡辺佐平／久留間健
北田芳治／桑野　仁
花原二郎／川口　弘

装幀　志賀紀子

『現代人の科学』の刊行にあたって

ロケットに乗り月へ往復できる時代になった。自然科学はずいぶん発達したものだと思う。しかし、一方、たべるものがなく多数の人間が餓死している現実がある。一般的にいって、科学者は真理の探究が人間に幸福をもたらすと信じて研究に身をささげてきたし、またそれが社会的通念でもあった。だが、ことはけっしてそうつごうよくは運ばない。ここ数年来の不幸な種々の事件――たとえばＰＣＢやＡＦ２の問題など――によって、そのことがはっきりしてきた。気づくのがあまりにおそかった感がないではないが、研究成果の不用意な利用が人類を滅亡させる危険をもつほどに自然科学が巨大な発展をとげたからこそ生まれた新段階の問題ともいえよう。それはともあれ、いまや科学はあらためてそのありかたを問いなおされているといわなければならない。科学は人間の幸福に役だつときにのみ存在価値をもつという根本理念を確立し、その理念に立って科学を再建することが求められている。

科学の再建にあたって大事なことは、人文・社会・自然科学の調和のとれた発展をはかることであろう。資本主義の利潤追求の原理のもとでは、もうけにつながらぬ研究はなおざりにされる。安全性にかんする科学の遅れなどその典型である。その結果、資本主義社会の科学全体がいびつなつりあいのとれぬものになっている。アンバランスは人文・社会・自然科学のそれぞれの中にあると同時に、三者のあいだにもいちじるしい。自然科学にたいする社会科学のはなはだしい相対的おくれが、自然科学の成果の利用を危険なものにしているともいえる。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

一〇年前、日本科学者会議の創立のために集まった科学者たちの胸の中には、このような科学のありかたをあらためなければならぬという意識がすでにあったと思う。以来、諸分野の科学者が集まり健全で調和のとれた日本の科学の発展を願って、暑い日も寒い日も手弁当で活動を続けてきた。ゆがんだ科学の発展がその責任の一端を負わなければならない種々の公害や環境破壊の問題にも、科学者会議に属する諸分野の科学者が手をたずさえてとりくみ、その中から新しい科学がめばえようとしている。このような活動を通じて科学者会議はこんにち会員数一万名をこえ、日本の科学者運動のナショナル・センターになった。

日本科学者会議は創立十周年の記念事業のひとつとして、この一年間、会内外の第一線の研究者を結集して市民講座「現代総合科学講座——国民的課題にこたえて」をおこなってきた。現代の複雑な社会の中で有意義な生活を送ろうと思えば、科学者も技術者も教育者も、さらにまた一般市民も、自分の専門、自分の職業にかんする知識のほかに、自然と社会を正しく理解するために必要な科学的知識を身につけなければならない。このような要請に科学者会議の立場からこたえようというのが、この市民講座の目的であった。幸いにこの企画は好評を博し、のべ二〇〇〇人をこえる参加者を得たので、今回その講義の内容にさらに吟味を加え、『現代人の科学』全一二巻として発刊することにした。

いわゆる専門馬鹿でなく、視野が広く、自分の研究の社会的位置づけをしっかりできる科学者——そういう科学者がふえることが、人間の幸福のための科学を発展させ、人類と科学の調和をもたらすための前提条件だといってよい。この講座はそういう人たちを生みだす期待をこめて刊行されるのである。

日本科学者会議「現代総合科学講座」実行委員長　山崎　不二夫

目　次

『現代人の科学』の刊行にあたって　山崎不二夫

インフレーションの基礎理論　渡辺　佐平

一　物価問題と貨幣数量説……一四
1　物価というもの……一四
2　物価変動とその諸要因……一六
3　貨幣数量説……一九
二　流通通貨量と物価……二三
1　通貨学派の物価論……二三
2　銀行学派の物価論とその理論の限界……二四
3　流通必要貨幣量の決まりかた……二七

三　マルクスの価値章標論……三一
1　銀行券と政府紙幣とのちがい……三一
2　政府紙幣の流通基盤……三五
3　政府紙幣（価値章標）の独自の流通法則……三七
四　インフレーションの理論……四三
1　インフレーションという用語の意味……四三
2　インフレーション論と「価値章標論」……四六
五　インフレーション理論の不換制下への適用……四八
1　不換銀行券の流通法則……四八
2　貨幣流通にかかわる銀行の機能……五二
3　結　語……五五

現代日本の物価騰貴とインフレーション

久留間　健

一　現代日本の物価騰貴の原因についてのさまざまな見解
——物価高騰の犯人探し——……五八
1　こんにちの物価騰貴の原因を学生たちはどうみているか……五八
2　学生たちの見解の根本的な欠陥……六〇
二　「高度成長」政策とインフレーション

——物価騰貴の根本原因——……六九
1　不換制下に特有な通貨の減価現象としてのインフレーション
——その三つの発生ルート——……六九
2　「高度成長」下の通貨量と物価の関係……七三
3　金融ルートをつうじた過剰な不換通貨の増大……七五
4　財政ルートをつうじた過剰な不換通貨の増大……八二
三　「高度成長」の破綻とインフレーションのあたらしい局面
——インフレの悪性化と買占め・投機——……八七
1　外貨流入ルートをつうじた過剰な不換通貨の増大
——いわゆる「過剰流動性」と買占め・投機——……八七
2　政府の積極的なインフレ政策——大型財政と金融緩和政策——……九〇
3　政府の政策決定の基礎にあったもの
——「高度成長」の破綻と資本主義世界経済のゆきづまり——……九四

石油危機・物不足とインフレーション

——一九七三—七四年の国民的教訓——

北田　芳治

一　石油危機……一〇〇
二　石油危機と投機……一〇三

1　石油企業の投機……一〇三
2　政府と石油業界の共謀……一〇五
3　石油業界の投機利潤……一〇九
4　独占資本による産業の統制……一一〇
5　独占資本のカルテル行為……一一二
三　石油危機に先行した投機の大波……一一三
1　為替投機……一一三
2　株式および土地にたいする投機……一一五
3　商品投機……一一六
4　物価暴騰の開始期……一一九
5　独占資本の市場支配力……一二一
6　総合商社と投機……一二四
四　インフレーション政策……一二五
五　国民の教訓……一三〇

インフレーションと国際通貨危機

桑野　仁

一　現代資本主義の矛盾が過剰生産恐慌の爆発としてではなく、なぜ国際通貨危機としてあらわれるのか？……一三四

1 爆発的恐慌としてあらわれない理由……一三四
2 国際通貨危機……一三八
二 「世界インフレーション」というものは存在しない……一四三
三 国際収支黒字による「輸入」インフレーション……一四七
四 アメリカによるインフレーションの輸出と第二次世界大戦中の日本によるインフレーションの占領地輸出との相違点と類似点……一五一
五 価値の国際的「収奪」はどのようにしておこなわれるか……一五五
六 国際通貨制度改革問題について……一五七

インフレ下の国民生活と消費者運動　花原二郎

はじめに……一六四
一 今日の高物価・インフレの特徴と国民への影響……一六四
1 政府の物価統計と国民の生活実感とのズレ……一六四
2 今日の物価騰貴の異常性……一六八
3 国民生活の実態……一七〇
4 国民の対応……一七四
二 今日の高物価・インフレの原因……一七六
1 独占資本の買占め・売り惜しみ、独占価格のつり上げ……一七六

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

a　資金的裏づけ……一七六
b　「日本列島改造論」……一七九
c　世界的な食糧・原料難……一八〇
d　狂乱物価は国民の責任か……一八五
2　公共料金の引上げ……一八七
三　消費者運動の特徴と方向……一九〇

インフレーションと今後の対策

川口　弘

一　「現代インフレーション」のメカニズム……一九六
1　はじめに……一九六
2　現代インフレーションのしくみ……一九八
a　「現代インフレーション」は第二次大戦後（国家独占資本主義段階）に独特の現象……一九八
b　「基調としてのインフレ」のしくみ——寡占の価格支配力と「ケインズ政策」との結合——……二〇三
c　「ケインズ政策」の評価と世界的インフレの展開……二〇九
d　対米従属下での大企業優先「高度成長」政策がもたらした日本の特殊問題……二一二

二「現代インフレーション」の対策……二二四
1「物価狂乱」から「新価格体系」への移行とインフレ対策
——短期的視点から——……二二四
a「物価狂乱」の経過……二二四
b「新価格体系」移行をめぐって……二二九
2「現代インフレ」への基本的対策
——長期的視点から——……二三九
あとがき　建部　正義

インフレーションの基礎理論

渡辺佐平

一　物価問題と貨幣数量説

1　物価というもの

インフレーションという言葉は、こんにち日常生活において、ひんぱんに使われる一般的な用語となっている。しかし、その意味はかならずしも明白ではなく、この言葉を使う人のインフレーションにたいする理解の差異に応じて、それぞれの人がこの語をいくぶんかずつ異なった意味で使っているのが、いまの実情である。だが、ごく大まかにいえば、このインフレーションという用語は、物価にかんして、また物価の上昇に関連して一般に使われているということができよう。そこで、インフレーションという用語の正しい規定を求めていく手順として、まず「物価」とはなにかをここで明らかにしておくことが、さしあたって必要と思われる。

「物価」という言葉も、さいきんきわめて多くの人々の口にのぼるが、いまあらためてその語がなにを意味するのかと問われるならば、その答に窮する人も少なくないであろう。まず第一に、物価というものが、ひとつひとつの商品の価格、つまりそれぞれの値段とは異なった意味をもっているということは、だれでも納得するところである。しかし、第二に、そのちがいはどこかということになると、その辺のとこ

ろがなかなか難かしいわけである。

経済学の、よくある形式的な説明によると、物価というのは、無数商品の個別価格の総合平均であるということになっている。こういっても、物価というものが、すぐピンと頭にうかばないと思われる。そして、事実、物価というものは、よく人の口にのぼったり、またいわゆる皮膚で感じられたりしているわりには、かんたんに表示されえないものでもある。すなわち、個々の商品であれば、げんざい、帽子一個何千円とか、キャベツ一個百何円とかいうふうに表わされる。しかし、個別価格の総合平均といわれる物価は、げんざい何千何百円というようには表示されない。実際において、物価は統計学の計測方法のたすけをかりて、ある時点におけるその高さはどのくらいであるかというように示されるのが慣例となっている。つまりこの方法によると、まず基準になる年月次を定め、その年月次における諸商品の個別価格にたいし、ある他の時点におけるそれぞれの商品の対応価格を比較して、その変動の比率を算出して、それらを総合平均化して表示することになる。これがすなわち物価指数であり、それにも「卸売物価指数」や「消費者物価指数」など幾種類かある。人びとはそういう指数をもとにして、ある時点における物価が上がったとか、下がったとかいうわけである。つまり、物価というのは、ある時点におけるその高さが、他の時点におけるそれとの比較において、いわば相対的にとらえられるものでしかない。そして、そのかぎりにおいて、物価とはなにか、といってもその意味するところは、きわめてとらえがたいものだというほかはないのである。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c